



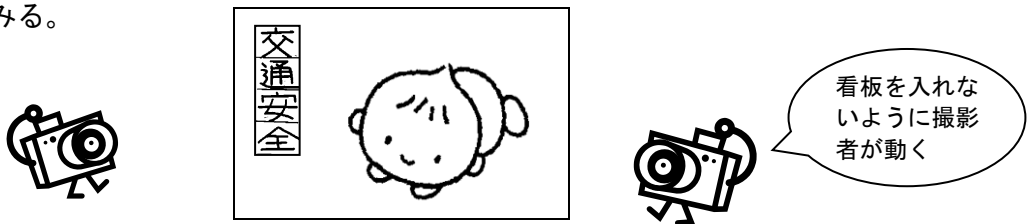
「パパママのベビー&キッズフォト講座」に学ぶ 写真撮影のコツ

気持ちの良い季節になってきました。外での活動も増えてきますね。そんなときのお子さんのいきいきとした表情を写真に収めてみませんか？先日行われたフォト講座から写真撮影のポイントをお伝えします。

1. 構図

(1) カメラの位置取りを考える

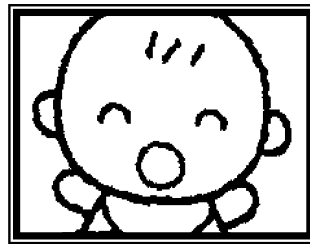
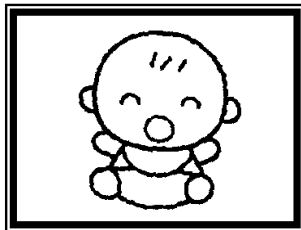
撮影者が、子どもの近くに寄ったり離れたり、背伸びをしたりかがんだり、横にずれたりすることによっていろいろな構図が生まれる。例えば、構図の中に一つだけ目立つ色がある、入れたくない背景がある等、強い存在感を放つものがモデルの近くにある場合は、カメラの位置取りで、うまくそれが隠れる構図を探してみる。



(2) 子どもの表情を映す

子どもの写真を撮るときは、体を低くして（撮影者が寝そべってもいい）子どもの目線（又はそれより少し下）に合わせてみるのもよい。子どもと目線を合わせることで、子どもと撮影者の間に友だち関係のような関係性が生まれ、子どもの表情が変わる。

余白が多いと散漫な写真になる。余白を極力なくすことで子どもの魅力的な表情の写真の撮影することができる。子どもは顔が大きいので頭が少しくらい切れていても気にしなくてよい。



(3) 動きのある構図を考える

モデルを中心に配置すると、動きのない構図になる。動きのある（意味のある）写真を撮るには、モデルを中央から外すと良い。例えば、写真の構図で、左側が開くときは未来を、右側は過去を表わす。



←
広さができ、左前方に動きが出る！



←
左にスペースがない場合、写真としての動きが止まる。

2. 光

なるべく自然光で撮る

横45度の角度から光が当たると、顔の凹凸がはっきり出て、陰影のある写真が撮れる。光の当たり方を確認することで美しい写真が撮影できる。コンパクトカメラの場合、暗いと自動的にフラッシュが発光する仕組みになっているが、なるべく発光解除にして撮る。フラッシュは顔の微妙な表情をなくしてしまう。逆に、明るい所（窓やガラス戸を背にして）で撮影すると、カメラが勝手に明るいと判断して、全体的に暗い写真になってしまうので、強制発光させて撮影するとよい。

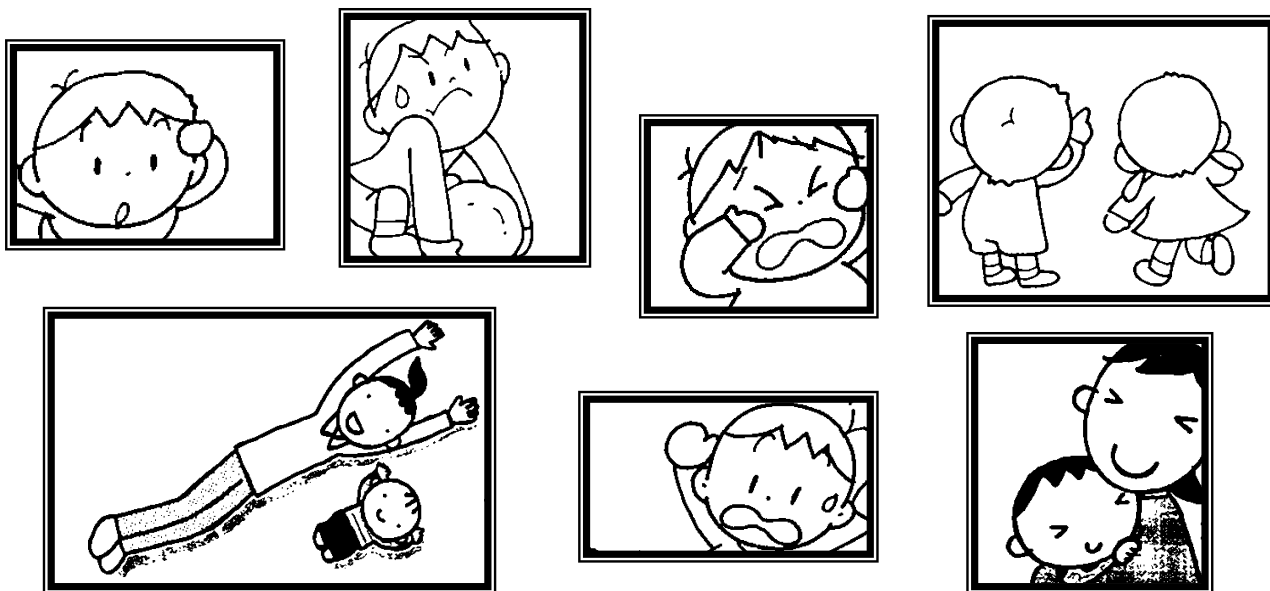
同じシチュエーションでストロボをオン・オフにして撮影して、写真を見比べてみるのも撮影の腕をあげるひとつ方法です。

3. その他

子どもの成長を記録しよう！

写真を撮影するときは、カメラ目線の笑顔の写真が撮りがちですが、子どものさまざまな表情やしぐさを成長の記録として残しましょう。

お父さんやお母さんと背の高さや手の大きさ等を比べて撮影しておくことも、今しかできない記録の方法です。



～講師の阿部修二さんからのメッセージ～

最近のカメラはほとんどがオートで、それほど苦労せずに美しい写真が撮れるようになりました。ところが、オートというのは失敗が少ないことを意味していますが、いい写真になるということとは別の問題です。マニュアル撮影は難しいと思われがちですが、以前の説明書に比べたら最近のものは写真入りで丁寧に説明されていますから、こんな写真が撮りたいという目標があれば、説明書のそのページをめくってトライしてみてください。意外と簡単ですよ。

ストロボをオン、オフにすることをマスターするだけでも、かなり面白い写真が撮れるようになります。夜景、人物とイルミネーション、強制発光などを自在に駆使して、他の人とちょっと違った写真を決めてみましょう。練習と確認を事前におくといいいですね。

最後に、お子さまの表情に気を取られて、顔に当たっている光を確認することもお忘れなく。写真は光の芸術です。美しい光がいい写真を作ることを心に留めておいてください。

